

スキルも人脈もない状態で教育と採用広告の会社を起業。そんな不安定な時期にめぐりあったCDA資格。資格取得後は自社の研修プログラムの中にキャリアカウンセリングの内容を反映させることで、より幅広い人材育成に関わることに。また、「楽しくてためになる研修をモットーにSPトランプやマジック（手品）なども取り入れたセミナーを開催する角本さん。CDAとして一生勉強を続けることが大切という角本さんに、その活動についてお話を伺った。



## 「楽しくてためになる研修」を モットーにユニークな研修を提供

角本 紗織理（会員番号 CDA132647）

—CDA資格を取ろうと思ったきっかけは何ですか？

大学卒業後、大手人材派遣会社にて2年の勤務を経た後、とあるきっかけで起業をすることになり、2003年5月株式会社SORAを設立しました。起業といっても、スキルも人脈もない状態で、当時教育コンサルタントをしていた母に取締役に任じてもらい、関東の広告会社と提携して、教育と採用広告の会社としてスタートすることになりました。

教育事業では、母が開発し、今では12万人に活用されているSP（サブパーソナリティ）トランプ（自己理解・自己成長・他者理解・他

者対応などを楽しく学ぶことができるカードツール）を活用した研修が中心だったのですが、私自身は講師経験もなく、非常にスキル不足を感じていました。

そんな時に、母の講師仲間であった芦田先生とお目にかかる機会があり、「講師として活動していくのであればCDAを取得しておいた方がいいですよ」とすすめて頂いたのが、きっかけとなり、2004年CDAの資格を取得しました。

—CDA資格取得はあなたにとって何か得ることや変化がありましたか？

元々人材派遣会社に勤務していましたが、様々な人のキャリアに触れる機会が多くありました。ただ、なかなか本人の望むキャリアを形成することが難しい現状も目の当たりにしてしまっていたので、キャリアを支援する「キャリアカウンセリング」や「キャリアコンサルタント」の重要性を改めて感じました。また、自社の研修プログラムの中に、キャリアカウンセリングの内容を反映させることにより、より幅広い人材育成に関われる可能性が広がったと感じています。

—このお仕事を行っている中での、心構えやモットー、自分に言い聞かせていることなどはありますか？

私の場合は、マンツーマンでの支援よりは、セミナーや講演という形で関わる場合が多いのですが、一対複数であっても、個々の受講生がそれぞれ望むキャリアを形成できるようなお手伝いをしたいと考えています。そして、養成講座で頻繁に教わった「答えはクライエ

ントの中にある」という事を忘れずに、「教える」というよりは、いかに「気付けてもらえるきっかけを提供できるか」ということに重点を置いて、関わるよう心がけています。また、「楽しくてためになる研修」をモットーに、SPトランプ以外にも、マジック（手品）等と取り入れたセミナー等、できるだけ楽しく、でも楽しいだけではなく、しっかりと日常に活かしてもらえるようなプログラム作りに入れています。

そして、何よりこの仕事は、自分自身が一生勉強し続けなければならないと思います。先日、CDAの養成講座のお手伝いをしたのですが、私が受講した頃と内容も色々変わっていました。常に、最新の知識と高いスキルを提供できる様に、自分を磨き続けることが大切だと思っています。

—このお仕事を行っている上での、課題や悩み、抱負、喜びなどをお聞かせください。

人には誰でも、自分で自分を育てる力といえますか、キャリアを作り上げる力があると信じています。でも、環境や状況によってそれに気がついていかなかったり、思うようにいかなかったりすることってたくさんありますよね。特に最近では大学生、内定者、新入社員、若手社員という若年層向けの講座のご依頼をよく頂くのですが、不況のせい、自信が持てなかったり、夢が無かったり……という様子を見かけま

